

## 平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 長野県松本市

代表団体名

事業名称 『WEB サービス技術による、地域参画型観光情報発信流通モデル』構築事業

## 1. 事業実施概要

今年度は、新たな観光情報の整理・発信を目的に平成19年度に構築した「観光情報発信流通基盤」を、地域・全国区、企業・市民・行政など、様々な主体がそれぞれ得意とする役割を果たしながら、観光コンテンツを発信・流通する仕組みへと発展させる取組みを行った。

具体的には、松本市の観光関連情報を民間ポータルサイト（g o o）へ発信し、そこから地域への導線（アクセス）を確立する仕組みの構築です。民間ポータルを活用することにより、地域側では大規模な設備の保有から開放され、情報発信に注力できると共に、ユーザー側にも、地域情報へのアクセスが容易になるというメリットがある。この取組みにより、地域・ポータル・ユーザー、3者間における win-win なモデルの構築を目指している。

## 2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
民間大手ポータルサイトへの情報提供開始	提供先 1件	1件	○	・大手ポータルサイト “g o o”との情報連携および特集企画の製作・掲載

## 3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

## <委託業務説明書>

### 1 平成20年度事業実施において明らかとなった課題

#### (1) 認知度向上

##### (課題)

大手ポータルサイトの機能を活用しているものの、当初期待していたほどの利用者の認知度が得られていない。これは、大手ポータルサイトにおける地域情報の位置づけ(掲載位置、他の情報と比較した場合の取り扱いの重要度等)の低さによるところが大きな要因として挙げられる。

##### (解決の方向性)

自ら所有するシステムと異なり、他者のサイトでは自由な表示位置の変更などは当然行えない。そのため、大手ポータルサイト内で、「特集企画ページ」の制作・公開を行った(2ヶ月間)。このことにより、一時的にはあるもののアクセス数が向上しており、認知度アップに一定の効果があることが確認された。

#### (2) 利用者の発掘

##### (課題)

大手ポータルサイトにおける地域情報提供サービスは、特定の地域(例えば「松本市」)に関心のある方をターゲットとした導線となっている。そのため、「どこへ観光に行こうか?」と考慮中である潜在的顧客の発掘には繋がり難い面がある。

##### (解決の方向性)

経費面を含めた調査・検討を行う必要はあるが、ユーザーの興味・関心に連動または潜在意識を掘り起こす情報発信の手法(「検索連動型情報発信(広告)」、「興味・関心連動型情報発信(広告)」等)の活用が有効と考えられる。

#### (3) 負担軽減

##### (課題)

地域協力者には次のような不安がある。

- ①システムの新規性による技術的不安
- ②システムの規模からくる、維持経費を含めた運営負荷不安
- ③地域内に留まる取組みに対する効果面での不安

##### (解決の方向性)

「利用可能な民間サービス(インフラ)を可能な限り活用する」という基本方針に基づく、官民の境を越えた「機能の再配置」を行う。具体的には、ユーザーアクセスが集中するフロント側の機能(地域情報検索、マッピング処理等)を民間ポータルサイト側に委ね、地域側は観光情報のコンテンツ・プロバイダーとして、民間ポータルサイトへ情報提供する機能を担うことにより機能分散を図るものである。このことにより、大規模システムの維持負担に対する不安を軽減できたと考えている。

なお、中長期的な自律的運営を義務付けられているが、このことが逆に地域メンバーの負

荷・負担に対する不安を煽ることとなり、斬新なアイデアを提案し積極的な取組みを行うといった事業参画の面におけるマイナス要因となっている。

## 2 自律的・継続的運営の見込み

自律的・継続的運営に向けては、松本市観光ICTサービス促進協議会よりシステムの新規性による技術的不安、システム規模の大きさによる負荷的不安が挙げられていた。

これら不安を払拭するため、自らの所有するシステムのみならず、モデル全体としての最適化の視点から「利用可能な民間サービス（インフラ）を可能な限り活用」することによる、「官民による機能の適正配置（再配置）」を行った。これにより地域側が保有するシステム（機能）も「最適化」が図れたため、地域関係者からも技術的・負荷的不安の軽減に評価を得られ、財政力の小さな地方都市においても継続的に運営できる環境を整えつつある。

他方、自律的運営に向けては、公費に頼らない自主財源の確保が大きな課題である。この解決に向けてはWeb上への「広告枠販売」がその解の一つとして考えられるが、広告枠の販売価格はサイト訪問者数に比例する傾向があり、そのためには露出効果が拡大するような取組みが必須となる。大手ポータルサイト上の特集ページ制作、サーチエンジンと連動する仕組みの活用等が露出拡大方策として挙げられるが、これらの活用には経費負担が高額となる恐れがある。官民連携時における広告収益のビジネスモデル形成あたっては、その費用対効果、費用分担等の整理が必要となってくると思われる。

このように自主財源についてはまだ課題があると言わざるを得ない状況である。しかしながら、システムの全体最適化による経費節減効果で、当面の本事業は自律的に持続できるものと考えている。

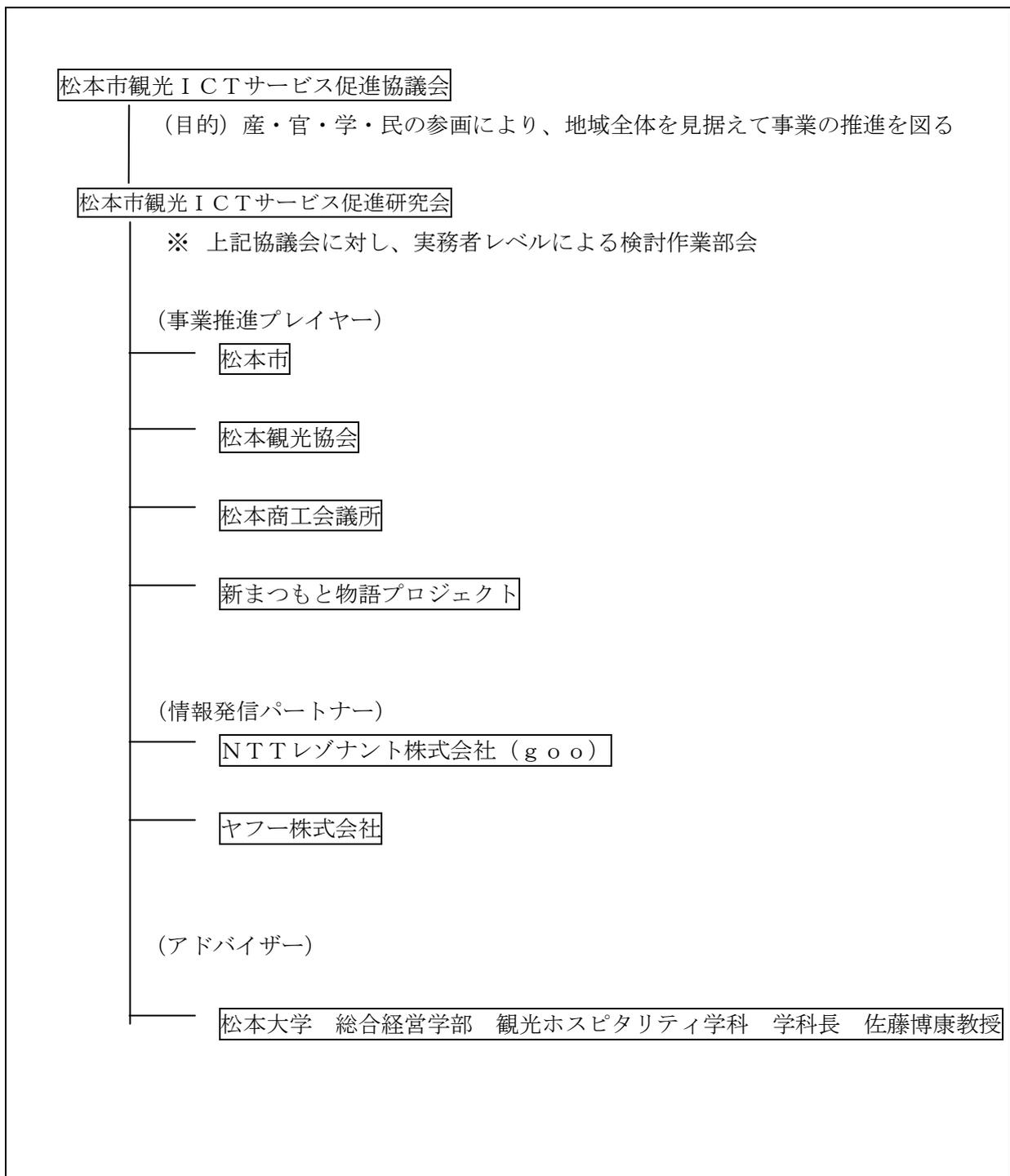
## 3 今後の展開方針

本市に特化したシステムを独自に開発するのではなく、全国どこでも利用できる民間商用サービスを、システムの一部として積極的に活用しまた組み合わせることが、あるべきICTの利活用した姿であり、モデルの価値を高めることだと考えている。

自らが保有するシステムと民間商用サービスを組み合わせることでWeb全体としてのポテンシャルを最大限に高め、情報閲覧者に対する「松本」のブランディング効果向上と、地域経済発展へ貢献するという、これまでの観光情報発信のモデルを継続して実施するとともに、連携範囲を拡大して、取り組みの強化を図っていく方針である。

<実施体制説明書>

1 実施体制



## 2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	松本市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議会（研究会）の事務局</li> <li>・ モデルの企画</li> <li>・ 外部との調整</li> <li>・ システム構築</li> <li>・ 観光、ロケ情報のコンテンツ・プロバイダー</li> </ul>
2	松本観光協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松本市域の観光関連団体（事業者）等の調整</li> <li>・ 宿泊施設情報のコンテンツ・プロバイダー</li> </ul>
3	松本商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松本市域の飲食宿泊等事業者の調整</li> <li>・ 飲食施設情報のコンテンツ・プロバイダー</li> </ul>
4	新まつもと物語プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松本市公式観光ポータルサイト(新まつもと物語)の管理・運営</li> </ul>
5	NTTレゾナント(株) (g o o)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域情報の発信</li> <li>・ 地域との連携に関する提言</li> </ul>
6	ヤフー(株) (Y a h o o !)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域情報の発信</li> <li>・ 地域との連携に関する提言</li> </ul>
7	松本大学総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 佐藤博康教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合アドバイザー</li> </ul>

## 事業実施進行表

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H21 1月	2月	3月
協議会等開催 (研究会)					△	△	△	△	△
システム構成の 検討・決定	→	→							
システム構築に 係る競争入札	→	→							
システム設計		→	→						
システム稼働 (特集企画)				→	→	→	→	→	→
報告書作成					→	→			→
次年度協議					→	→	→	→	→

## その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

- [1] <http://lweb.city.matsumoto.nagano.jp/location/>  
[松本市ロケホームページ「松本ロケーションガイド」]
- [2] <http://takara.city.matsumoto.nagano.jp/>  
[松本市文化財ホームページ「松本のたから」]
- [3] <http://local.goo.ne.jp/special/matsumoto/>  
[ポータルサイト goo による松本特集]

## 平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：長野県 松本市

代表団体名：長野県 松本市

事業名称：『WEB サービス技術による、地域参画型観光情報発信流通モデル』構築事業

## 1 概要

### (1) 情報発信力の向上のための機能追加

H19年度事業において構築した情報通信システムの機能を維持しつつ、民間の大手ポータルサイト（goo）からの観光情報の発信のために連携する機能を構築して、観光情報発信モデルを確立した。

### (2) 基盤システムの最適化

「利用可能な民間サービス（インフラ）を可能な限り活用する」を基本的方針として、運用を継続する中で発見したシステム負荷の偏りの平準化、民間事業者による地域情報配信サービス（インフラ）の利用によりシステム構成を見直し、最適化を図った。軽量かつ柔軟なシステムとなったことで、より持続性をもったモデルへと発展させることができた。

## 2 運用結果

2008年10月1日より、新システムでの公開を開始しました。運用開始から約6ヶ月経過した2009年3月25日現在、民間サービス（大手ポータルサイト）へ提供した観光情報のうち、アクセス数の把握が可能な252件(提供した観光情報のうち約30%)に対するアクセス件数は、4803件(月平均：800.5件)となっており、民間サービスとの連携／民間サービスから地域サイトへのユーザーのアクセスリターンを促すモデルが機能していることが確認できた。

運用トラブルの発生も無く、順調に稼動している。

## 3 課題・改修の必要性

情報発信力の向上と地域サイト（サービス）へのユーザーのアクセスリターンの増加のために、他の民間サービス（大手ポータルサイト）との連携機能の追加が必要。

さらに、観光情報発信流通モデル（システム）の利便性の向上のために、システムに対する他のシステム／プログラムからの接続インタフェースの追加も今後検討すべき対象と考えている。

## 4 その他